

一緒に時間も、それぞれの時間も大切に、

充実したシニアライフを満喫

平成21年7月からご入居された

畑上利郎様、孝子様

現役時代、大阪及び東京に勤務されていたご主人の退職を機に、故郷である熊本へ帰郷され、60歳代でご入居された畑上様ご夫妻。

お二人が入居を決意されたのは、奥様の孝子様がお二人の介護で定期的に熊本を訪れておられた時に、建設中のグランガーデンをご覧になられたことがきっかけだそうです。

「部屋の中も、防火設備は十分に整っているし、緊急ボタンや、生活安全センサーがあるから、室内で何かあっても長時間放置されることもないので安心です。」と利郎様。

孝子様は「不便なところに住む気はありませんでした。ここは市街地の中心で、利便性が良く、どこへ行くにもほとんど徒歩で行けますし、自然環境も良く、熊本城や二の丸公園はいい散歩コースになっています。それに、同じ建物内に介護施設があるという点も大きかったです。どちらかが、介護が必要になっても、別々の施設に住むことにならずに行き来できるので、助かりますよね。」と話してくださいました。ご両親の介護を経験され、自分たちは早くから設備

の整った施設に入ろうと考えておられ、将来も見据えてのご入居だったそうです。

入居前の生活とどう変わったかとお尋ねすると、利郎様は「孝子様が」食事を作らなくてよくなったことかな。それが妻への一番のプレゼントですね。お風呂も大浴場があるから、とても便利です。」との優しいお言葉に、孝子様を大事にされていることが伝わってきます。

お二人は多趣味で、それぞれの時間も満喫されておられます。

利郎様は帰郷後一念発起し、熊本城のボランティアガイドを8年ほど務め、観光に來られた方々の地元にある各地のお城と、熊本城を比較した説明など、ご自身で細やかな資料を用意され、熊本城のすばらしさを伝えられています。また、孝子様は、熊本の伝統工芸品である《肥後てまり》の製作や、三味線の練習に励まれ、ご夫婦では一緒に、スロージョギングやストレッチを行うなど、日々積極的に健康づくりに取り組み、施設の内外で日々の生活を楽しまれています。

グランガーデン熊本での生活で、印象に残っていることをお伺いすると、孝子様は「5年

前の熊本地震ですね。食事も3食食べられず、飲み水に不自由することもなかった。建物も頑丈に作ってあるから、大きな被害もなく、自分のベッドで寝ることができました。ここに住んでいて本当に良かったと思いました。このスタッフも、献身的に対応してくれて感謝しています」と、ありがたいお言葉をいただきました。

利郎様は「体力も気力もあって、判断力があるうちに、入居の決断が出来たことが良かったと思っています。若くて元気なうちに入居して活動拠点をここに移し、シニアライフを満喫することが大事だと考えています。」と、笑顔で話してくださいました。

一緒に時間も、それぞれの時間も大切に、これからも、グランガーデン熊本で充実したシニアライフをお過ごしいただきたいと思えます。

